

## 学会企画シンポジウム 2

### 大震災体験が教師の教育観に及ぼした影響

#### —10 年間の歳月を通して—

企画・司会：荻間澤勇人（会津大学）

企画・指定討論：河村茂雄（早稲田大学）

話題提供：森本晋也 #（文部科学省総合教育政策局）

話題提供：熊谷圭二郎（神奈川県立保健福祉大学）

話題提供：根田真江（富士大学）

話題提供：藤村一夫（盛岡市立太田東小学校）

キーワード：東日本大震災，心的外傷後成長，教師の教育観

#### 【企画趣旨】

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災はそれに伴う津波，また福島原子力発電所の事故などにより，東北地方を中心に日本全体に大きな傷跡を残した。さらに，生存者の中にも，命を脅かすような強い心的外傷（トラウマ）体験をきっかけに，心的外傷後ストレス反応・PTSR (Post-Traumatic Stress Reaction) や抑うつ症状などの，身体的及び精神的健康の問題を抱えて苦しんでいる人も多く，現在でも専門家による支援が継続されている。トラウマティックな出来事は，人がもつ自己や内的世界についての基本的な仮定を揺るがし，侵入的な反すうのようなネガティブで意図しない思考が繰り返されれば，PTSD を発症する可能性もある。

その一方で，侵入的な反すうの後に，より建設的に出来事の起きた意味を見出すような意図的な反すうや意味づけ，ポジティブな再解釈などがとられると，揺らいだ基本的仮定が再構成され，心的外傷後成長・PTG (Post-Traumatic Growth) という前向きな変化が生存者に起こることも示唆されている（上野ら，2016）。

2010 年代の日本は台風や地震に数多く見舞われ，全国の多くの地域が被災地域となっている。そして現在，新型コロナウイルスの問題は世界的規模で深刻化し，その対応は先の見えない長期戦になる可能性が高まっている。このような状況は，日本の学校教育にも深刻な影響を及ぼしている。児童生徒は言うに及ばず，教育を支える教師もメンタルヘルスを悪化させ，教育実践の質が低下していくことが危惧されている。

そこで，東日本大震災から 10 年を経た今，東日本大震災で大きな被害を受けた地域で，学校・地域の復興に教師や援助者として従事した方々で，その体験が心的外傷後成長に向かえた方々をシンポジストに迎え，心的外傷後成長に向かえたプロセス，自分の教育観や指導観に及ぼした内容について，話題提供してもらおう。非常時において，教育関係者が前向きに教育実践を展開するためのヒントを得られることを期待する。